グローバルオフィス委員会

2024/11/27

ザンビア独立 60 周年「ザンビアを語る ザンビアの保健事情と日本の支援 」報告

2024 年 11 月 21 日（木）15:00-17:00　帝京大学板橋キャンパス

薬学部　環境衛生学（公衆衛生学研究科）　教授　山本秀樹

帝京大学、アフリカ開発協会、NPO 法人ロシナンテスの共催で 1964 年 10 月 24 日に独立したザンビア共和国の独立 60 周年を記念してザンビア共和国駐日特命全権大使トバイアス・ムリンビカ閣下をお招きして開催された。主催者を代表して帝京大学グローバルオフィス委員会委員長・中田善規教授、アフリカ開発協会・矢野哲朗会長の挨拶に続き、日本・アフリカ連合(AU)友好議員連盟会長・逢沢一郎衆議院議員のビデオメッセージに続き、ムリンビカ大使によりザンビアの紹介が行われた。

中田教授による歓迎の挨拶

矢野理事長の挨拶

逢沢一郎議員によるメッセージ

ムリンビカ大使の挨拶とザンビアの案内

引き続き、外務省アフリカ部（国際協力局）・村上顯樹参事官から我が国のアフリカ外交、来年の TICAD9 にむけた取り組みについて報告が行われた。JICA（国際協力機

構）・アフリカ第３課・阿久津謙太郎課長によるザンビア共和国において JICA が 1990 年代からこれまで行ってきたザンビア共和国における保健関連分野の紹介（ルサカ市プライマリーヘルスケアプロジェクトや給水事業や現在行われつつあるルサカ市およびコッパーベルト州における機能強化について紹介が行われた。

帝京大学からは山本が 2019 年の TICAD 開催時にアフリカ開発協会からケニア共和国のジョモケニヤッタ農工大学の附属病院に関する依頼から始まり、帝京大学の Healthy Project や前職の岡山大学在職時より岡山大学ユネスコチェアプログラムで行われた、持続可能な開発（Sustainable Development）と日本の公民館をモデルにした（CLC）を活用した地域全体を健康にしていく構想を帝京大学先端総研「アフリカヘルシーホスピタルプロジェクト」でケニア/ザンビアで展開していること。ルサカ市のチャワマ地区（低所得住民）で実践して来たことをザンビア共和国におけるコッパーベルト州のコッパーベルト大学に医学部が 2015 年に開設され Sustainable Mining の課題と公衆衛生の課題があり、帝京大学は宇都宮キャンパスや福岡キャンパスがあり栃木県の足尾銅山、福岡県の筑豊炭鉱の経験の共有など、環境や地域社会を踏まえた保健人材育成について協力することが可能であることを報告した。

ロシナンテスの川原尚行代表からはスーダン共和国で外務省医務官の経験から NPO 法人を立ちあげてスーダンでとり組んできたが、政情不安で現地に行けないこと。アフリカの保健医療課題を解決するために新たな技術を活用して大学や企業と連携してきており、政情の安定しているザンビアで NPO 法人 TICO(徳島で国際協力を考える会）が実施して来たセントラル州の母子保健活動を引き継いでマザーシェルター事業などを実施していること、ポータルブルレントゲン装置や保育器など適正技術と先端技術の活用についてザンビアで実践を行い、他のアフリカの国々で実装することの意義について説明が行われた。診療放射線技師や臨床工学士の重要性について言及があった。

パネルディスカッション「これからのザンビア医療への日本の支援」ではアフリカ開発協会の長谷川仰子・事務局長がモデレターとなり、登壇者の他に帝京大学福岡キャンパスの臨床工学コースの廣浦前教授らとザンビアのザンビア大学における心臓外科の支援を行ってきた吉田修医師も加わって活発な議論が行われたその中で、人材育成の重要性があげられ、「帝京大学で保健人材の留学生を各地のキャンパスで受け入れてはどうか？」という提案もあった。

グローバルオフィス委員会

2024/11/27

吉田医師

廣浦前教授もオンラインで参加

講演会の最後に主な参加者らと

2025 年 8 月に横浜で開催される TICAD9、11 月に帝京大学で開催される日本国際保健医療学会にむけて継続的にアフリカにおける保健人材の育成等、本学のグロバルオフィス委員会等でも検討していく必要がある。

今回の記念行事では関係各所でご協力いただきありがとうございました。